



総合資料館だより

2015. 10. 1 No. 185

平成27年度 東寺百合文書展—今に伝わる2万5千通—



今回の展示には、「—今に伝わる2万5千通—」というサブタイトルがついています。「今に伝わる」という言葉は、当たり前なことを言っているように響くでしょうか？現在は国宝としてとても大切に保存されている東寺百合文書ですが、昔からずっと平穏無事な環境のなかにあったわけではありません。

中世の昔から今に至るまでの数百年の間には、火災・戦乱・盗難などで文書がなくなりそうになったこと、実際になくなってしまったこともありました。また、不要になった文書は棄てられてきました。

今に伝わる2万5千通の文書は、過去無数にあった、生き残るか・なくなるかという分かれ目のすべてで生き残る方をたどることができた幸運な文書なのです。

この展示では、その幸運な文書を使って、東寺百合文書がぐり抜けてきた様々な状況を紹介します。

目次	「平成27年度 東寺百合文書展—今に伝わる2万5千通—」	1
	東寺百合文書展関連コラム	2
	文献課の窓から 資料紹介コーナーの琳派400年祭関連企画 ～「琳派」に関する本をめぐって～	4
	歴史資料課の窓から 幻に終わった由良川の水運ルート開発 ～なぜ通船計画にこだわり続けたのか？～	6
	最近の収集資料から	8
	寺子屋講座、展覧会ご案内	11
	友の会事務局から、利用案内等	12

東寺百合文書は、東寺のなかの供僧を中心とする組織が、日々の仕事の中で作成したり受け取ったりした文書の集まりです。ですから、この文書はまだ必要か、もう不要か、という吟味を受け、不要と判断された文書は廃棄されてきました。

それならば、どんな文書が棄てられていたのでしょうか？棄てられたのなら残っていないのでは？と言われてそうですが、実はまったく残っていないわけではありません。

東寺百合文書が使われていた当時、紙は現在のようにありふれたものではなかったので、大切に再利用されていました。ただ、再利用といっても下のように漉き直して新しい紙になってしまうと、元はどんな文書だったのかはわからなくなってしまうのですが。



ク函5号 備中国新見庄領家方奥村分正検畠取帳案

再利用には、裏面を使って別の文書を書く、というやり方もあります。その文書が今に伝わると、棄てたはずの文書が裏側に残っている、ということになります。この裏側になって残った文書を「紙背文書」（しはいもんじょ）といいます。



や函10号の15 御室宮令旨案

紙背文書を調べるとどんな文書が棄てられていたのかがわかります。とはいえ、紙背文書全部を見て調べるのはなかなか手間がかかり、この資料館だよりの原稿締め切りには間に合いません。そこで、日々の作業で使用している東寺百合文書の目録データをもとに、コンピュータの助けを借りて大きな傾向を探ってみることにしました。

ある文書が紙背かどうかは、目録の文書番号でわかります。「と函/52/紙背/2/」だと、と函52号の紙背の2番目の文書です。紙背という文言の有無で文書を通常の文書と紙背文書とに分けると、通常の文書は27337件、紙背文書は641件になりました。

古文書の名前は、文書から読み取ったさまざまな情報を組み合わせて付けます。一般的な作法として、文書の種類は文書名の最後に記述します。たとえば、と函62号の「大和国平野殿庄預所平光清重陳状案」という文書名だと、「重陳状案」が文書の種類です。

3万近くもある文書名から人手だけで文書の種類をとるのは大変です。そこで文書名をコンピュータに切り分けさせることにし、まずその素材にする言葉リストを作ります。今回は1300弱の言葉を集めてみました。その一部は次のようなものです。

定額僧、真聖、定額僧真聖、寄進状、田地、令旨、御室宮、大和国、平野殿庄、下司、平市熊丸、瓜、送進状、起請文、実信……

このリストを使ってコンピュータに文書名を切り分けさせると次のようになります。

若狭国太良庄年貢雑穀等支配状

若狭国 太良庄 年貢 雑穀 等 支配状

法印経胤請文

法印 経胤 請文

関東裁許状案

関東 裁許状 案

六波羅施行状抄
 六波羅 施行状 抄

若狭国太良庄領家雜掌尚慶地頭若狭忠兼代良祐
 連署和与状案

若狭国 太良庄 領家 雜掌 尚慶 地頭 若
 狭忠兼 代 良祐 連署 和与状 案

若狭国太良庄百姓綾部時光等連署重申状
 若狭国 太良庄 百姓 綾部時光 等 連署
 重申状

若狭国太良庄百姓名内地頭拔取畠地等注文
 若狭国 太良庄 百姓 名内 地頭 拔取 畠
 地 等 注文

沙弥西向起請文
 沙弥 西向 起請文

若狭国太良庄百姓中申状
 若狭国 太良庄 百姓中 申状

若狭国太良庄百姓等重申状
 若狭国 太良庄 百姓 等 重申状

若狭国太良庄百姓綾部時光等連署重申状
 若狭国 太良庄 百姓 綾部時光 等 連署
 重申状

上段が本来の文書名、下段が言葉リストを
 使って文書名を切り分けたものです。それらしく
 分割できました。

切り分けた方の最後に位置する言葉が文書の
 種類になります。「支配状」や「請文」という言
 葉です。今回は最後が「案」だったり「抄」だっ
 たりする場合には最後から2番目の言葉を文書の
 種類として取り扱うことにします。その文書の種
 類を集計してみると、紙背ではない通常の文書
 27337件の結果は次のようになりました。

通常の文書の種類集計結果（上位10件）

書状	4078/27337	14.9%
注文	1860/27337	6.8%
奉書	1713/27337	6.3%
請文	1550/27337	5.7%

散用状	1301/27337	4.8%
申状	963/27337	3.5%
御教書	953/27337	3.5%
支配状	948/27337	3.5%
請取	848/27337	3.1%
包紙	819/27337	3.0%

これに対して紙背文書641件の結果は下のよう
 になりました。

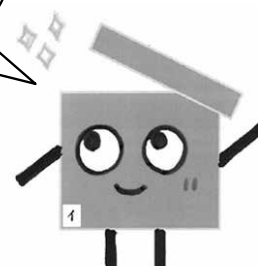
紙背文書の種類集計結果（上位10件）

書状	387/641	60.4%
着到	36/641	5.6%
申状	32/641	5.0%
注文	29/641	4.5%
奉書	29/641	4.5%
支配状	8/641	1.2%
包紙	7/641	1.1%
請取	7/641	1.1%
御教書	6/641	0.9%
請文	6/641	0.9%

もし、どんな文書でも均しく棄てていたのなら
 ば、通常の文書の種類集計結果と紙背文書の種
 類集計結果でパーセンテージにそれほど違いは
 出てこないはずですが、しかし、紙背文書は通常
 の文書に比べて書状の比率が明らかに高くなって
 います。つまり、中世の東寺で書類事務をおこ
 なっていた僧侶達にとっては、棄てて再利用する
 には書状が一番だったようです。

（歴史資料課 岡本 隆明）

東寺百合文書展のご案内は11ページに記載
 しています！



資料紹介コーナーの琳派400年祭関連企画 ～「琳派」に関する本をめぐって～

今年は琳派400年記念祭にあたり、当館では資料紹介コーナーで、5月に「琳派デザイン」、そして10月に「琳派をめぐる～光悦・宗達から雪佳へ～」の2回にわたって、所蔵する関連図書を紹介しています。

当館の琳派に関する図書は、図版重視の豪華本や展覧会図録、琳派に名を連ねる作家に関する研究書、光琳文様を載せた雛形本など数多く揃えています。ここでは、主に資料紹介コーナーで取り上げた本の中から、普段は書庫に保管されている出版年の古いものを紹介します。

■『^{こうりん えほんみちるべ}光林繪本道知邊』3巻 野々村忠兵衛画 1735 (享保20) 年



生没年は不詳ながら、京都の町絵師として活躍したとされる野々村忠兵衛が描いた光琳風の絵手本です。光琳は1716年に没しましたが、野々村忠兵衛は、まだ人気のあった光琳文様の特徴を端的にとらえ、柔らかなふくらみのある描線によって草花などを描き出しています。なお、書名である「光林」の表記は、法橋の位を持つ絵師光琳の名前をはばかって意図的に「光林」としたとも考えられています。(請求番号：和722|15)

■『新雛形名取川』好水堂著 1733 (享保18) 年



図版にある「^{こうりん なでしこ むぐら}光林撫子に葎」のように光林(光琳)の名前のついた草花文様が散りばめられている小袖雛形本です。雛形本は現代のファッションブックにも似て、当時の流行意匠がよくわかります。光琳風の小袖文様は正徳年間(1711～16年)頃から雛形本によく登場するようになったようですが、この本も書名の上に「^{どうせい}當世」、つまり「いまどきの」として、光琳文様の流行を示しています。(請求番号：和730|44|1,2)

■『光琳百圖』前篇2巻 酒井抱一編 1815 (文化12) 年、『光琳百圖』2巻 寺田岩次郎編 1894 (明治27) 年



酒井抱一が尾形光琳の百回忌を記念して出版したものです。光琳が描いた絵画百点を、自ら縮写し版下絵を制作しました。これは、自宅で光琳の遺作を集めて展覧会を行うと同時に企画されました。抱一は宗達・光琳から受け継いだ系譜を、はじめて流派に系統づけたといわれますが、尾形流(琳派)の正当な継承者として世に示すものだと考えられています。

『光琳百圖』は、1815年に上下2巻で出版され、さらに1826年にも同名で上下2巻が後編として出版されています。当館には、1815年刊行本の2冊を1冊にまとめて上巻とし、後編2冊を1冊にまとめて下巻として1894年に復刻された2種類の『光琳百圖』があります。

また、上記図版の絵は現在メトロポリタン美術館に所蔵される「八橋図屏風」に基づいた縮写ではないかとの指摘もあり、『光琳百圖』は散逸した光琳の作品を探る手がかりにもなっているようです。

さらに、『光琳百圖』は幕末には既にヨーロッパに渡り、光琳のイメージを伝えるのに役立った

ほか、万国博覧会でのジャポニスムブームにも繋がっていくようです。(請求番号：特||722||11||1,2、和||722||94||1,2)

■『海路：染織図案』2 神坂雪佳著 1903(明治36)年



近代の琳派といわれる神坂雪佳が、染織品のために考案した図案集です。雪佳がヨーロッパ工芸事情調査から帰国した1902年の翌年に発行されました。

雪佳の師・岸光景は、当時工芸界の指導的立場にあったうえ、琳派作品のコレクターであり、その影響から琳派研究に励んだとされています。また、雪佳は大正期には光悦の功績を顕彰する光悦会の発足にも携わっています。

上記図版のように、波を主題に、97のパターンが集録されていて、そのバリエーションの多さは圧巻です。欧州で目にしたアールヌーボー様式なども取り入れながら、雪佳の新境地が窺えます。(請求番号：和||753.8||Ka38)

■『蝶千種』2 神坂雪佳著 1904(明治37)年



『海路』よりさらに現代に通じるグラフィックデザイン的なアレンジで、蝶のさまざまなパターンが集録されています。かたちの面白さだけでなく、構図にも優れ、色調に上品さと優雅さが感じ

られる図案集です。

当館には、出版年の違う2種類の『蝶千種』があり、初版本(1904年刊)は残念ながら2巻目のみですが、復刻版(1992年刊)は1, 2巻揃っており、色鮮やかです。

これらを出版した芸艸堂^{うんそうどう}は1891(明治24)年に木版摺技法による美術出版社として創業しました。現在でも、雪佳の木版のはほぼ全部を管理しています。(請求番号：和||757.1||Ka38||2、特||727||Ka38||1,2)

以上ご紹介できた本はわずかですが、資料紹介コーナーでは、テーマに沿った本をいろいろ集めていますので、是非手にとって琳派の世界に浸っていただければ幸いです。

最後にとっておきの1冊を紹介します。当館の貴重書で「光悦謡本」と呼ばれるものです。これは、江戸時代初期に角倉素庵が刊行を主宰し、琳派の創始・本阿弥光悦^{きらす}が制作に協力したとされるもので、雲母^{きらす}刷りを施した装飾性の高さで知られています。



▲『舟弁慶』江戸時代初期

※資料紹介コーナーでの展示はありません

謡曲百番の内、上記図版の『舟弁慶』^{ふなべんけい}のほか、『呉服』、『白楽天』、『楊貴妃』の4点があります。これらの画像は、現在新館オープンに向けてシステムをリニューアルしておりますので、近日中に当館ホームページでご覧いただけると思います。どうぞご期待ください。

(文献課 藤本 恵子)

資料紹介コーナー・琳派400年関連企画Ⅱ

期間：平成27年10月15日(木)～

平成28年1月12日(火)

時間：9:00～16:30

場所：当館3階閲覧室

幻に終わった由良川の水運ルート開発 ～なぜ通船計画にこだわり続けたのか？～

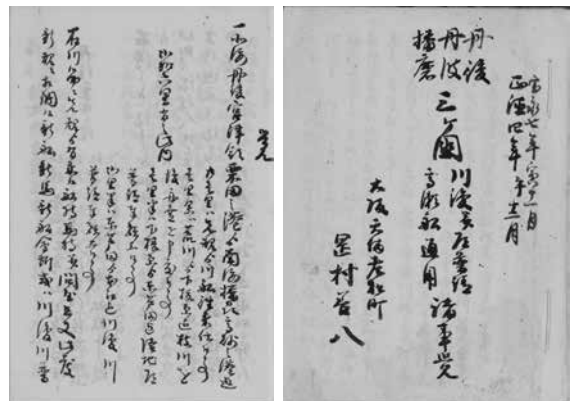
今年7月18日、京丹波わちIC～丹波ICの開通にともない、京都府北部に位置する宮津市と京都府南部をつなぐ京都縦貫自動車道（約100km）が全線開通しました。全線開通に至るまでに着工から35年という長い月日を要しましたが、京都府を南北に貫く新たな交通路は観光や産業の活性化のほか、府内の物流を支える動脈として人々に活用が期待されています。

ところで、物資の輸送や人々の移動は陸路だけに限りません。江戸時代では、河川が移動ルートとして重要な役割を果たしており、由良川水系を利用して日本海と京都・大坂を結ぶ水運ルートの開発計画がたびたび提出されました。

1. 次々に出される由良川水運計画

加佐郡西方寺村（現舞鶴市）の上野家に伝来した文書¹の中に、「丹後丹波播磨三ヶ国川浚并道普請高瀬船通用諸事覚」という資料があります。これは、宝永7（1710）年と正徳4（1714）年に大坂天満老松町の岡村善八が京都西町奉行所や京都代官小堀仁右衛門へ提出した、由良川と加古川を利用して丹後、丹波、播磨、大坂を結ぶ水運計画の写しを書き留めたものです。

岡村は、丹後国栗田（くんだ）湊（現京都府宮津市）から由良川を遡上して、福知山の荒河から支流の和久川に入り、榎原から氷上郡東芦田（現兵庫県丹波市青垣町）までの峠は道を拡張して陸送



▲「丹後丹波播磨三ヶ国川浚并道普請高瀬船通用諸事覚」（上野家文書）

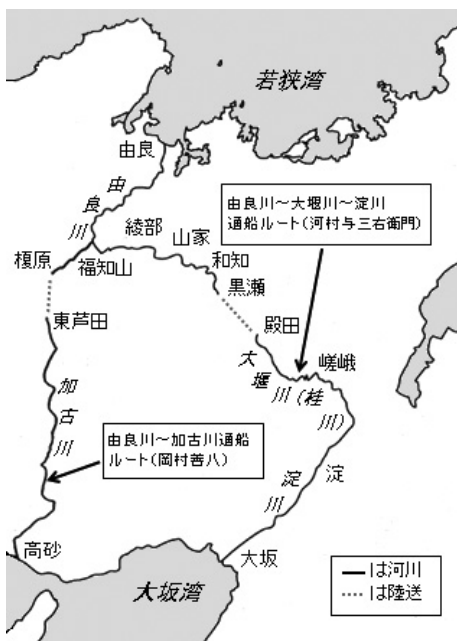
し、その後は加古川舟運を利用して播磨国高砂湊（現兵庫県高砂市）へ至る輸送ルートを計画しました。しかし、川沿いの村々はこの計画に反対する口上書を京都代官小堀仁右衛門に提出しています。

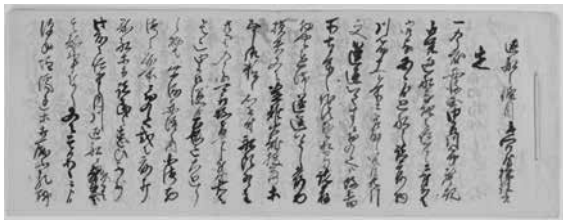
ちなみに、岡村は同様の計画を、享保5（1720）年にも提出しました。この計画には幕府が航路の現地調査を行っており²、一定の関心を持っていたことがうかがえます。

また、綾部藩の重臣であった平和家³に残された平和家文書の中に、淀の住人河村与三右衛門⁴が、通船方元締役所を開いて、船と車を使って丹後から大坂までの運送を管理できるように定めた「通船之条目并問屋株訳書」という文政13（1830）年の覚書の写しがあります。

この資料によると、河村は由良湊（現京都府宮津市）から由良川を遡り、黒瀬（現船井郡京丹波町）から殿田（現南丹市日吉町）までは陸送して大堰川に連絡し、嵯峨を經由して桂川から淀川に連絡して大坂に至る輸送ルートを計画しています。途中の由良湊、福知山、綾部、黒瀬、殿田、嵯峨、京都、大坂の八ヶ所に番所を置き、船株や車株でもって運営する計画でした。ほかにも、由良湊から京都・大坂までの距離、荷物の運賃、船頭・水主の賃金などが詳細に定められています。

実はこれ以前の明和7（1770）年にも、河村家の祖先が同様の通船計画⁵を提出しましたが、幕府から許可が下りなかったため、文政10年に再度計画⁶を出願します。その後、文政11年にかけて幕府役人の実地調査や川沿いの村々といった関係各所と交渉を進めました。いよいよ文政13年に





▲「通船之条目并問屋株記書」（平和家文書）

河村は「由良川筋新規取開通船支配」に任命され、計画の実現に向け動き出します。由良川上流で航路の開削工事が行われたようですが、この由良川と大堰川と淀川を連絡する輸送路が実際に活用されたかどうかは、資料が少なく不明です。

2. 由良川水系ルートの開発に走らせる背景

なぜ岡村や河村は由良川水運ルートの開発を計画しつづけたのでしょうか。その理由は、日本海側の物資輸送ルートが抱える欠点にあると考えられます。

まず、一つ目は“輸送期間”です。当時の日本海の物資を京都・大坂方面へ運ぶには、西廻航路が利用されていました。この航海ルートでは、日本海沿岸の港を出航した船が下関・瀬戸内海を経由して大坂まで物資を運んでいましたが、航海には長い日数を要しました。

続いて二つ目は“安全”です。年貢米の回漕が集中する冬季の日本海は荒れることが多く、船もろとも物資が海の藻屑に帰す事故が多発していました（『御触書寛保集成』四十二廻船并川船等之部・正徳二年八月）。

こうした西廻航路の欠点に目を付けた者たちが、物流を支える動脈として由良川水系と大堰川水系、または加古川水系を結ぶルートと連結することで、日本海側の物資を海上輸送と比べて安全かつ短期間で京都・大坂方面へ輸送しようと計画したのです。

3. 由良川水運開発計画のその後

本稿で紹介した岡村や河村以外にも、京都・大坂の町人または商人たちによって同じような由良川水運の開発計画がなされているものの、どの計画も大量の物資が輸送されたことを示す資料が見られないため、これらは実現しなかったと推測されます。

計画が頓挫した理由は定かではありませんが、たとえば「丹後丹波播磨三ヶ国川淀并道普請高瀬船通用諸事覚」には、「船曳きの人手を出すと田畑耕作の妨げになる」、「川船を引き上げるために水害防止用の竹木を伐採すると、洪

水で田畑が水没する危険性がある」など、航路開発に伴う河川工事をめぐって川筋の村々から支障をきたすことを理由に反対されていた様子が見えます。

こうした反応に対して、岡村や河村は村々を巡って交渉を行っています。岡村は「川船輸送を妨げず、田畑作物等を踏み荒らさない」⁷などを、河村は「井関の手入れや橋の修理を保障する」⁸などを条件に村々から通船計画の承認を得ていますが、その後も地元住民たちから根強い抵抗があったのかもしれません。

また、川筋によっては岩場や滝といった難所もあるため、航路の開発工事や河川の維持管理などに多大な費用が必要となり、通船で得られる収益との採算が合わなかったと考えることもできます。

岡村や河村の計画は、由良川及びその支流を出来る限り結び、大堰川や加古川上流の船運と最も近い場所で連結し、日本海側の物資を短期間で安全に輸送しようというものでした。計画の上では通船が可能だったようですが、川筋の村々との調整や費用面での条件を満たすことができず、止む無く中断したというのが本当のところではないでしょうか。

（歴史資料課・古文書担当 山本 琢）

※「大阪」の字は、江戸時代の表記に合わせて「大坂」で統一しました。

- 1 上野家は江戸時代に村の庄屋を務め、藩と地元を結ぶ大庄屋も務めた家です。詳しくは『資料館だより』No.178をご参照ください。
- 2 「宮津日記下」享保5年12月19日・享保6年11月7日（『丹後史料叢書』第4輯、1927年）、「滝ヶ洞歴世誌」享保5年12月（『大江町誌』史料編、1981年）。
- 3 平和家は綾部藩の町奉行・寺社奉行、大目付や家老などを勤めた家柄です。
- 4 この人物は淀納所の住人であるので、慶長3（1598）年に豊臣秀吉から淀川を運航して京都―大坂間の貨物・乗客を運ぶ川船支配の朱印状を受けた河村与三右衛門の子孫と推測できます。
- 5 「由良湊より嵯峨川通船願之儀に付伺書案并御勘定奉行差遣候切紙写」（『海事史料叢書』第17巻、1969年）。
- 6 「書付之事」（『和知町誌』史料集2、1989年）。
- 7 「通船一札」（『社町史』第4巻史料編2、2002年）。
- 8 「由良川通船二付議定書」（『和知町誌』史料集3、1990年）。



最近の収集資料から（平成27年6月～8月）



◆図書資料

〈京都〉

こころの幸 無財の八施 森清範著
KADOKAWA 2015 135p

ほんやら洞日乗 甲斐扶佐義著 風媒社 2015
657p

事前学習に役立つみんなの修学旅行 京都・京都
2 山田邦和監修 小峰書店 2014-2015 2冊

上京拾壹番組繪図 [上京十一番組] [1869]
1冊

西八條大通寺領田畠井境内圖 [江戸時代中期]
1枚

京都発！ニュータウンの「夢」建てなおしま
す 向島からの挑戦 杉本星子・小林大祐・西
川祐子編 昭和堂 2015 11,237p

京の路地裏植物園 田中徹著 淡交社 2015
190p

かがやき 心とからだの健康雑誌 第2巻第1
号 日置昇平編輯 かがやき発行所 1934
56p

京都の市電 昭和を歩く 街と人と電車と 福
田静二編著 トンボ出版 2015 191p

京の色百科 河出書房新社 2015 143p

祇園の灯の中にて 女将たまのつれづれ日記
今井珠江著 郁朋社 2015 126p

〈人文〉

雑誌新聞総かたろぐ 2015年版 メディア・リ
サーチ・センター株式会社編刊 2015 1835p

後陽成天皇源氏物語講釈聞書 冷泉家時雨亭文
庫編 朝日新聞社 2015 239,16p (冷泉家時
雨亭叢書 99)

全国首長名簿 都道府県知事・全市区長 2014
年版 地方自治総合研究所編刊 2015 153p
寄贈

法制史研究 法制史學會年報 64 法制史学
会 成文堂(発売) 2015 7,548,71,15p

古記録による11世紀の天候記録 水越允治編東
京堂出版 2014 11,458p

彦根城 彦根市教育委員会文化財部文化財課編
刊 2014 274p,図版[16] p 寄贈

村野藤吾 やわらかな建築とインテリア 大阪
歴史博物館編刊 2014 144p 寄贈

重森三玲の庭園 水野克比古著 光村推古書
院 2015 127p

教如と東西本願寺 同朋大学仏教文化研究所
編 法藏館 2013 6, 292p

現代の起点第一次世界大戦 全4巻 山室信一
[ほか] 編 岩波書店, 2014 内容: 1 世界
戦争 2 総力戦 3 精神の変容 4 遺産

縄文文化の探究 早稲田大学の縄文時代研究
早稲田大学會津八一記念博物館・平原信崇編
早稲田大学會津八一記念博物館 2014 79p
寄贈

一瓦一説 瓦からみる日本古代史 森郁夫著
淡交社 2014 239p

中世の荘園空間と現代 備中国新見荘の水利・
地名・たたら 海老澤衷・酒井紀美・清水克行
編 勉誠出版 2014 227p 取得

昭憲皇太后実録 全3巻 明治神宮監修 吉
川弘文館, 2014 内容:上巻 嘉永2年~明治
30年 下巻 明治31年~大正3年 別巻 年
譜・解題・索引

近世の宗教美術 領域の拡大と新たな価値観の
模索 矢島新編 竹林舎 2015 430p (仏教
美術論集7)

夜の画家たち 蝋燭(ろうそく)の光とテネブリ
スム ふうやま美術館 [ほか] 編刊 2015
184p 寄贈

琳派 響きあう美 河野元昭著 思文閣出版
2015 5,836,34p

Graphic design in Japan 2015 JAGDA年鑑
委員会編集・制作 日本グラフィックデザイナー
協会 六耀社(発売) 2015 475p

**ポスター・コレクション カタログ・レゾ
ネ** 6 京都工芸繊維大学美術工芸資料館
2015 127p 寄贈

山中信天翁と幕末維新 没後一三〇年 碧南
市藤井達吉現代美術館歴史系企画展 豆田誠
路編 碧南市教育委員会文化財課 2015
111p

結界 下瀬信雄写真集 下瀬信雄著 石川順
一・竹内耕太編 ウィル・ラウテンシュラガ訳
平凡社 2014 143p

舞踊年鑑 2014 舞踊年鑑編集委員会編集 日
本バレエ協会 2015 124p 寄贈

〈官庁〉

**手に職をつけて働きたい人のためのはたら
校** 京都府内公的職業訓練校ガイド 京都府
[ほか編] 刊 [2015] 46p 取得

きょうと健康づくり実践企業認証制度 認証企
業の取り組み紹介 京都府健康福祉部健康対策
課編刊 2015 26p 取得

事例で学ぶ産業廃棄物3R 京都企業の実践例
を紹介 京都府産業廃棄物3R支援センター
[編] 刊 2015 17p 取得

京都市予算の概要 平成27年度 京都市 [編]
刊 [2015] 195p 寄贈

**京都府南丹市定住促進アクションプラ
ン** 2014-2017 南丹市定住促進行動計画推進
本部 2014 17p 寄贈

ガス事業便覧 平成26年版 経済産業省資源
エネルギー庁ガス市場整備課・商務流通保安
グループガス安全室監修 日本ガス協会刊
2015 351p 寄贈

水害統計 平成25年版 国土交通省水管理・国
土保全局編刊 2015 759p 寄贈

衛生行政報告例 平成25年度 厚生労働省大臣
官房統計情報部編刊 2014 477p 取得

統計でみる都道府県のすがた 2015 総務省統
計局編刊 2015 193p 取得

青果物卸売市場調査報告 平成24年度 農林水産省大臣官房統計部編 農林統計協会刊
2015 487p

首都圏白書 平成27年版 国土交通省編 勝美印刷刊 2015 108p

◆文書資料（新しく公開する資料）

京都皇居写真 京都御所で博覧会が開催されていた時期に発行・販売された紫宸殿はじめ京都御所の写真10点および目録1点。明治11年・13年。写真10点は、当時京都府が撮影し販売していたものだが、時代が経つにつれ詳細不明となり、明治38年に勸業課主管の土蔵で改めて発見されたものである。明治38年は京都府職員湯本文彦らにより府庁内の書庫調査・整理が進められていた時期で、目録には同時期に発見された「各分場記念牌」の記録も併せて綴られている。「各分場記念牌」は明治初年より11年頃までに榎村知事の指導により西洋国に倣い新設された施設（養蚕場・女紅場・蒲生野牧畜場・化芥所・集産場・授産場・博物館・染殿・製靴場・製革場・舎密局・パピールファブリック・牧畜場・織殿）の概略について、明治13年に知事の命を受け勸業課明石博高が記したものである。

三栖宮関係文書 京都市伏見区横大路下三栖にある三栖神社の神事に関する支出の覚を綴ったもの。2点。文化11年（1814）～慶応3年（1867）。これは神馬を担当した京橋島上北浜町（現在の伏見区北浜町）の当家（氏子の当番。年交代）が、毎年の神事の定例的な経費（神馬・舎人祝儀・御輿かき・看板代・新酒人足・御湯等の費用）を記したもの。なお、天保7年洪水による居祭願、天保8年御輿飾り盗難のこと、嘉永5年洪水、慶応元年將軍上洛・死去による延引等、特別な事情についての記述も一部に含まれている。

深川家文書 京都市上京区観音町（現在の中京区観音町）で鋳物業を営んでいた深川家の文書。70点。宝永7年（1710）～大正11年（1922）。深川家は鋳物業だけでなく、飾師藤屋として高御座（たかみくら）や葱花輦（そうかれん）や鳳輦（ほうれん）等の禁裏御用の道具製作の仕事に関わっていたと思われる。そのため深川家だけでなく他の禁裏御用の飾師や行事官・内匠寮の資料が含まれている。また維新後は明治22年の伊勢神宮遷宮にあたって調進する御神宝等の製作に関わっていたことが資料からわかる。飾師に関する主な資料として宝永7年（1710）「高御座金物仕様寸法代銀帳」、慶応3年（1867）「高御座図」、慶応4年（1868）「御鳳輦金物御洗手控」、寛政元年（1789）「内宮外宮御神宝絵図書」がある。その他に、深川家親戚の中島家の新夷町（新梅図子）の屋敷土地処分に関わる書類・書状がある。

軍事郵便絵葉書 臨時陸軍東京経理部や陸軍恤兵部で出征兵士慰問のために作成された絵葉書等の郵便セット。23点。昭和12～15年。従軍画家による中国の風景や兵士生活・戦場風景だけでなく、内地の作家による日本の風景を写したものもある。画家として向井潤吉・中村直人・和田三造・熊岡美彦等の名前がある。いずれも未使用のもので蒐集したものと思われる。ほかに戦前の北大路（烏丸車庫）付近を撮影したフィルム等がある。

立野家日記 五撰家の一つである近衛家の侍（地下官人）であった立野範種の天保6年（1835）の日記。1点。当番日（公務）非番日（私用）ともに記されおり、立野範種個人の交際や趣味教養（舞・能・和歌・寺社参詣・三味線等）を中心とした地下官人の日常生活の様子とともに、近衛家の日々の動静や勤め方もわかる。近衛家勤めの地下官人滝家の資料（館古582「石田善明氏旧蔵京都関係文書」）とも関連する資料である。寄贈。

寺子屋講座

「京都の歴史を歩こう！ 一下鴨編」

恒例の寺子屋講座「京都の歴史を歩こう！」を開催します。秋のさわやかな風を感じながら、散策しませんか。

京都府立大学歴史学科の東昇先生や学生さんと下鴨神社まで歩きながら、下鴨地域の歴史などを一緒に学びましょう。

日 時 11月7日(土) 午前10時～12時

集合場所 総合資料館正面玄関前

定 員 小学校4年生以上30人程度
(小学生は保護者同伴)

申し込み方法

住所、氏名(ふりがな)、電話番号(当日申込者本人と連絡のつく電話番号)、学生の方は学年を明記し、はがき・FAX・Eメールでお申し込みください。

*小学生は同伴される保護者の方の氏名(ふりがな)も記載ください。

申込・問い合わせ

〒606-0823

京都市左京区下鴨半木町1-4

京都府立総合資料館文献課

TEL : 075-723-4833 FAX : 075-791-9466

MAIL:shiryokan-bunken@pref.kyoto.lg.jp

注意事項

- ・申し込み受付後、参加決定者には、服装や持ち物などの注意事項を連絡いたします。
- ・雨天の場合は別メニューにて資料館内で下鴨地域の地図等の所蔵資料を閲覧していただきます。

「東寺百合文書展」

ご案内

会 期 10月1日(木)～11月8日(日)

開館時間 9時～16時30分

休 館 日 10月14日(水)・11月3日(火・祝)
※10月12日(月・祝)は休館日ですが、展示室は開室します。この日はお車では来館できません。

列品解説 10月17日(土)・10月31日(土)
14時から当館職員により実施

会 場 総合資料館2階展示室
京都市営地下鉄
「北山駅」1番出口すぐ

問い合わせ

京都府立総合資料館庶務課

TEL : 075-723-4831 FAX : 075-791-9466

MAIL:shiryokan-shomu@pref.kyoto.lg.jp

国際京都学シンポジウム —ユネスコ世界記憶遺産に向けて—

第2回「東寺百合文書の現在と未来」

日 時 10月12日(月・祝)

13時～16時30分

会 場 京都府立大学 稲盛記念会館
104講義室

(定員200名、当日受付、先着順)

◎是非、「東寺百合文書展」と併せてお越しください。

問い合わせ

京都府文化スポーツ部文化政策課

TEL : 075-414-4225

日誌(平成27年6月～8月)

5. 14 (木)～7. 7 (火)
資料紹介コーナー「琳派のデザイン」
7. 9 (木)～10. 13 (火)
資料紹介コーナー『資料で探索!「海の京都博～さあ、知と遊の冒険へ～」』
7. 11 (土) 地域の歴史を学び未来へ伝えるシンポジウム「丹後の魅力・歴史の楽しさを発見・発信!」
8. 6 (木)～8. 31 (月)
資料紹介コーナー「京都二中・鳥羽高校と京都の高校野球史」
8. 20 (木) 寺子屋講座「琳派を遊ぼう!～おもしろデザイン」

友の会事務局から

友の会では、随時入会申込みを受け付けています。(年会費2,000円:申込時～平成28年3月)

*主な活動(予定)

- ・見学会、現地講座(年各1回、要参加費)
- ・「総合資料館だより」の配付(年4回)
- ・京都文化博物館、堂本印象美術館の入館割引など

*見学会、現地講座は、11月以降に開催する予定です。

詳細は決まり次第、お知らせします。

問合せ先:友の会事務局(TEL 075-723-4831)

古文書相談のご案内

- 古文書の内容や解説についての相談を郵送にて受け付けております。
- 地域に残る資料の解説・整理取り扱いなどに関するご要望があれば、職員が出張して行います。
いずれも詳細は、当館歴史資料課(TEL 075-723-4834)までお問い合わせください。

メールマガジンのご案内

資料館では隔週でメールマガジンを発行しています。資料館イベントの情報や、新着図書案内、資料館ならではの京都関係のコラムを発信しています。

登録は下のURLからお願いします。

<http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/maga.html>

※「まぐまぐ」からのオフィシャルメールの解除は、登録後に送られてくる「メルマガ読者登録完了のお知らせ」から可能です。

利用案内

休館日 祝日法に規定する休日、
毎月第2水曜日、資料整理期、
年末年始(12月28日～1月4日)

[10月～12月の休館日]

10月12日(月)、10月14日(水)、
11月3日(火・祝)、11月11日(水)、
11月23日(月・祝)、12月9日(水)、
12月23日(水・祝)、
12月28日(月)～1月4日(月)

※この他、12月中に蔵書点検等、資料整理のため、臨時休館を予定しています。
日程が決まり次第、館内掲示及びホームページ等でお知らせします。

開館時間 午前9時～午後4時30分

交通 京都市営地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④、北8・北山駅下車
京都バス④⑤、④⑥・前萩町下車

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>



発行 京都府立総合資料館

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4

京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991) TEL. 075-723-4831 FAX. 075-791-9466

○本誌に対するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。

再生紙を使用しています。